

香川の漆芸展—今、生きづく漆芸美—



(「挨拶」から)

「第 12 回国民文化祭・かがわ'97」が「交流と創造—光と海と祈り—」をテーマに、本県で開催されますことは、私ども県民にとりましてこの上ない喜びであり、国内外から参加される皆様のご来県を心から歓迎申し上げます。

香川県は、万葉の歌人、柿本人麻呂によって「玉藻よし 讃岐の国は 国柄か 見れども飽かぬ……………」とその美しさを詠まれ、燦々とした太陽の光、古来、文化交流の道ともなった風光明媚な瀬戸内海、人々の祈りと交流の歴史を刻んだ四国遍路やこんぴら参りなど、恵まれた自然風土や歴史を背景に豊かな文化を育んでまいりました。

近年、地域のよき伝統や受け継がれてきた文化の大切さが再認識され、それぞれの特性を生かした個性豊かなふるさとづくりが重要になっており、本県におきましては、県政の指針となる香川県 21 世紀長期構想に基づき、物心ともに豊かで活力の富んだ、文化の香り高い魅力ある田園都市香川づくりを積極的に推進しているところであります。

このような時期に国民文化祭を開催できますことは、本県文化の振興はもとより、県民の生活に潤いや活力をもたらし、新しい香川づくりにも大きな意義をもつものと考えております。

第 12 回国民文化祭は、地域や分野を越えて様々な文化と人々が集い、交流を通して 21 世紀にふさわしい新しい文化を創造することを目指しており、国民文化祭で得られた成果が、香川から全国へと発信され、創造的で個性豊かな文化が各地で花開く一助となりますことを願っています。

参加される皆様には、全国の仲間との交流の輪を広げ、実りある成果を収められますとともに、深まりゆく讃岐路の秋を満喫し、思い出多い香川大会としていただければ幸いに存じます。